

ナンバリング	授業科目名(科目の英文名)					区分・【新主題】/(分野)						
ES11A005	子どもの問題行動や規範意識に関する事例研究(Case Studies on Students' Behaviors and Moral Values)					共通科目						
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員						
必修	2	1	大学院教育学研究科			氏名 今村裕, 古庄一夫, 牧英治郎 E-mail imamurayutak@oita-u.ac.jp, furusyo@oita-u.ac.jp, e-maki@oita-u.ac.jp 内線 6135(今村), 6146(古庄), 6137(牧)						
授業の概要	本授業においては、子どもたちの問題行動や規範意識に関する理解を深め、課題を発見し、具体的な対応を立案・検討する力を養う。											
具体的な到達目標	DP等の対応(別表参照)					1 2 3 4 5 6 7 8 9 10						
目標1	子どもたちの問題行動の現状と背景について深く理解する。											
目標2	生徒指導や道徳教育の原理について深く理解する。											
目標3	学校現場の事例を題材として、現状の課題を発見する。											
目標4	学校現場の事例を題材として、現状の課題に対して、具体的な対応策を立案・検討することができる。											
目標5												
目標6												
目標7												
目標8												
目標9												
目標10												
授業の内容												
1	授業テーマに関する学校の具体的な課題の理解											
2	子どもの問題行動に関する講義と事例分析 - 関係法規等を中心に											
3	子どもの問題行動に関する講義と事例分析 - いじめ等への対応を中心に											
4	子どもの問題行動に関する講義と事例分析 - 暴力行為等への対応を中心に											
5	子どもの問題行動に関する講義と事例分析 - 情報モラル等に関する対応を中心に											
6	子どもの問題行動に関する講義と事例分析 - 規範意識の育成を中心に											
7	フィールドワーク(子どもの問題行動に関する事例検討)											
8	生徒指導・道徳に関する講義と事例分析 - 生徒指導の原理を中心に											
9	生徒指導・道徳に関する講義と事例分析 - 道徳教育の原理を中心に											
10	生徒指導・道徳に関する講義と事例分析 - 子どもの発達観を中心に											
11	生徒指導・道徳に関する講義と事例分析 - 子どもたち全体への指導を中心に											
12	生徒指導・道徳に関する講義と事例分析 - 個別の問題を抱える子どもへの指導を中心に											
13	生徒指導・道徳に関する講義と事例分析 - 家庭・外部機関との連携を中心に											
14	フィールドワーク(子どもの規範意識に関する事例検討)											
15	学習成果の発表と総括											
ラック ニティ グループ	A:知識の定着・確認 B:意見の表現・交換 C:応用志向 D:知識の活用・創造	プレゼンテーション, グループディスカッション, KJ法, ロールプレイ, フィールドワーク			工夫 その他							
時間外学修の内容と時間の目安	準備学修 事後学修	事前に提示された事例等について、関連資料を調べたり、自分の意見を整理したりする。 演習において討議したことを整理し、個人の視点を明確にするとともに、まとめた事柄について、自己の視点と対照して、到達点を整理する。										
教科書	特になし。授業中に指示する。											
参考書	小学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 中学校学習指導要領(平成29年告示)、同解説総則編 生徒指導提要(平成22年3月)											
成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10
	複数教員による多面的・総合的評価(受講態度、課題に取り組む姿勢、討論への参加など)	70%										
	最終レポート(本授業において学んだ事や今後解決すべき課題など)	30%										
注意事項	本授業においては教員集団のメンバーとしての自覚を持ち、メンタリングの観点から、経験の豊富な者は経験の少ない者の成長をサポートするよう努力すること。また、経験の少ない者は経験の豊富な者に積極的に教えを請うこと。											
備考	現職院生が実践経験の中から子どもの問題行動や規範意識に関する事例等について紹介し、学部卒院生とともに議論し合うなど、アクティブラーニングの手法(思考ツールの活用・KJ法・四象限分類等)も取り入れ、現職院生・学部卒院生両者の学びあい・相互評価を基本とし、教員も参画したチーム学修に取り組む。											
リンク	URL											